

令和7年度 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座「サイエンスコミュニケーション1(SC1)」

授業科目一覧・スケジュール

- 令和7年度の「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、対面形式及びオンライン形式等を組み合わせた形で実施いたします。
- 講座は、主に座学と課題研究から構成されています。

講義	サイエンスコミュニケーションに関する理論を学ぶ授業です。担当講師は各分野の第一線や現場で活躍されている方々です。授業形態は、対面で実施する5月24日の3コマをのぞいて ・オンデマンド型授業(60分) + オンライン型授業(60分) ※オンデマンド型授業はオンライン型授業実施日1週間前から配信予定 ・オンライン型授業(90分) の2種類からなり、授業では、それぞれの事前・事後課題も含めて深く学びます。
課題研究	一般の方に向け、自分自身の研究や専門分野について発表するための授業です。担当講師は当館研究者・職員です。発表日(8月5日及び6日)に向けて、講師や他の受講者との議論を重ねながら「ディスカバリートーク」を作り上げていきます。ディスカバリートーク…土・日・祝日に当館の研究者が交代で、展示物についての話や研究者自身の研究内容などについて、来館者に直接解説するイベントです。(https://www.kahaku.go.jp/learning/event/d_talk/index.html)

※赤枠 対面で行う5月24日、5月31日、8月5日・6日の授業は必ず参加していただく必要があります。

<講義>

実施日程	講義名	形態	氏名	所属	概要
5月23日(金) 14:45~17:00	開講式・ オリエンテーション	オンライン	当館職員	国立科学博物館 学習支援部学習課	本講座を受講するに当たって、授業方法や評価などについての説明を行います。
5月24日(土) 10:00~11:30	サイエンスコミュニケーション概論	対面	小川 義和	埼玉県立川の博物館 館長 立正大学 教授	サイエンスコミュニケーションとは何か、何を指すのかを、どのような特徴があるのか、時代背景を振り返りながら論じ合います。
5月24日(土) 11:45~13:15	博物館の機能とサイエンスコミュニケーション	対面	小川 義和	埼玉県立川の博物館 館長 立正大学 教授	資料の収集保管、調査研究、展示や学習支援活動等の博物館の機能と博物館の資源を活用したサイエンスコミュニケーションの特徴と可能性について学びます。
5月24日(土) 15:30~17:00	博物館における 科学リテラシー涵養活動	対面	有田 寛之	国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター長	科学系博物館の学習支援事業を国立科学博物館を例に紹介しながら、国立科学博物館の展示・学習支援事業の目的である科学リテラシー涵養活動について学びます。
6月6日(金) 18:00~19:30	博物館における調査・研究活動と展示	オンライン	谷 健一郎	国立科学博物館 理学研究部 地学研究グループ グループ長	博物館における企画展示を通じて、自然科学に関連する内容を分かりやすく伝えるための工夫や、この背景にある博物館活動との関わりについて紹介します。
6月9日(月) 18:00~19:30	メディアに見るサイエンスコミュニケーションの実際:出版編	オンライン	松原 由幸	株式会社 Gakken K12-1 事業部 図鑑・科学編集課	学習図鑑の実例を紹介しながら、子ども向けの市販商品におけるサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
6月13日(金) 18:00~19:30	サイエンス・ライティングの 基本の“き”から	オンライン	詫摩 雅子	フリーランスの科学ライター、科学エディター	事前を書いていただく課題文を使いながら、サイエンス・ライティングの基本からお伝えします。ライティングの話になりますが、プレゼンなどにも通用する内容になります。
6月19日(木) 18:00~19:30	研究機関が実践するサイエンスコミュニケーション	オンライン	川野 武弘	国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター 広報・サイエンスコミュニケーター	大学や公的研究機関の広報には、研究成果を発信する役割と、科学に対する信頼を醸成する役割の二つがあります。本講義では、理化学研究所の事例を紹介しながら、理系のキャリアパスの一つとして広報担当者に求められるスキルについて考えます。
6月27日(金) 18:00~19:30	文化としての科学技術	オンライン	岡本 拓司	東京大学大学院 総合文化研究科 教授	知識としての科学の特徴、その技術との関わり、科学が形成されてきた歴史的な過程などについて、参加して下さる方々のご経験やご意見を伺いながら議論します。
7月4日(金) 18:00~19:30	味方を増やすライティング ／ 間落ちしないために	オンライン	詫摩 雅子	フリーランスの科学ライター、科学エディター	1回目の講義に続き、さらに上のライティングを目指しましょう。加えて書いた文章から浮かび上がってくる書き手の人柄についてお伝えします。自分が“間落ち”しないための指標にもしてください。
7月8日(火) 18:00~19:00	メディアに見るサイエンスコミュニケーションの実際:テレビ・ウェブ編	オンライン	大石 寛人	日本放送協会(NHK) メディア総局 番組ディレクター/デジタル担当	映像やデジタルコンテンツで「科学する」ために大事なことって?? 現場での実践例を交えながら、みんなで考えることができると思っています!
7月10日(木) 18:00~19:30	研究者自身が実践するサイエンスコミュニケーション	オンライン	水川 薫子	東京農工大学 農学部 環境資源科学科 講師	研究者兼サイエンスコミュニケーターとして様々なサイエンスコミュニケーションを実践した中で、自身の研究活動に還元された点や得られた効果について、具体的な事例を紹介していきます。

実施日程	講義名	形態	氏名	所属	概要
7月15日(火) 18:00~19:30	サイエンスコミュニケーションにおけるリスクコミュニケーションの重要性と戦略	オンライン	鈴木 美慧	聖路加国際病院遺伝診療センター 一般社団法人 CancerX 一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会 認定遺伝カウンセラー	私たちは日常の中で、健康や災害、環境、食の安全など、多くの「リスク」と向き合っています。しかし、科学的な事実や数値があればリスクが「伝わる」とは限りません。この講座では、医療や災害対応などの現場で実際に行われているリスクコミュニケーションの実例を紹介しながら、「伝えること」と「伝わること」の間にあるギャップについて考えます。受講者との対話も交えつつ、サイエンスコミュニケーターとして社会にどう向き合うかをともに探ります。

<課題研究>

5月31日(土) 13:30~17:00	課題研究(計 22 コマ)	対面	当館研究者・職員 文化庁職員	国立科学博物館 文化庁	「課題研究」では、一般の方を対象に、受講者が「ディスカバリートーク」を行うことを最終目標としています。当館研究者による事例を参考に、自らの研究・専門分野についての発表を準備します。多様な専門分野の受講者同士が議論しながら「ディスカバリートーク」を作り上げます。また、文化庁著作権課の職員の方を講師として、「ディスカバリートーク」におけるスライド等で他人の著作物を利用する際の注意点について学びます(7月1日~7月11日、オンデマンド配信)。
6月22日(日) 10:00~15:00		対面(オンライン併用)			
7月1日(火) ~ 7月11日(金)		オンデマンド配信			
7月6日(日) 10:00~15:00		対面(オンライン併用)			
7月18日(金) 10:00~17:00		対面(オンライン併用)			
7月22日(火) 18:00~19:30		オンライン			
8月3日(日) 10:00~17:00		対面(オンライン併用)			
8月5日(火) 10:00~17:00		対面			
8月6日(水) 10:00~17:00		対面			
8月19日(火) 10:00~15:30		対面(オンライン併用)			
8月19日(火) 15:15~15:30	閉講式	対面(オンライン併用)	当館職員	国立科学博物館	SC1 修了者に修了証を授与いたします。

※状況により、授業の実施日程等の変更や、講義の中止等の可能性がございます。

※各日程に記載されている課題研究の授業時間は、開始と終了の予定時間であり、適宜休憩時間が設定されています。